

56. 間脳下垂体機能障害

疾患概念

間脳下垂体機能障害とは、間脳下垂体に生じた腫瘍、炎症、又は血管障害等の原因により、下垂体ホルモンの分泌異常を来し、様々な臨床症状を来す病態のことである。

よって、異所性ホルモン産生腫瘍、間脳下垂体機能障害の無い患者に対して手術や医薬品の使用等により間脳下垂体機能障害を来した場合には、ここで言う間脳下垂体機能障害には含まれない。

56-1. PRL分泌異常症

56-2. ゴナドトロピン分泌異常症

56-3. ADH分泌異常症

56-4. 下垂体性TSH分泌異常症

56-5. クッシング病

56-6. 先端巨大症

56-7. 下垂体機能低下症